

# 最後の代官

⑦

## 忠左衛門日記

厳しかった十倉谷領の代官に、忠左衛門が正式に就任するのは安政4年の8月。その直前の4月には前年の借金6千両に加え江戸から臨時金の要請があり、疑問を持った総代たちが忠左衛門に江戸

怒った忠左衛門は退役を申し出るのだが、この時は受理されなかった。8月、忠左衛門は代官に就任。12月には藩主交代の件で江戸から呼び出しがかかるが、忠左衛門は多忙を理由に「来春ま

### 江戸末期の財政は火の車

#### 藩主に儉約談判も拒否され「退役願ひ」

源之進が地元の総代らへ行って調べてくるよう引き連れて江戸屋敷へ行き、厳しい財政再建案を打ち出した。これが「御改法御仕法帳」として岩本家文書の中に残されている。

忠左衛門は仕方なく江戸へ向かい、十倉谷領の藩主と代官と普通なら藩主と代官という関係上、藩主からの依頼を断るなど出来ないように思えるが、一度は

#### 十倉谷領の財政状況

項目	天保10年(1839)		安政3年(1856)	
	銀	金	銀	金
繰越金	94貫 5匁	1446両		
収入	52貫178匁	803両	35貫100匁	540両
支出	60貫761匁	935両	22貫 35匁	339両
収支残高	85貫423匁	1276両	13貫 65匁	201両
江戸預け	13貫	200両		
差引残高	72貫423匁	1076両		
借入残			390貫	6000両
総合計	72貫423匁	1076両	-376貫935匁	-5799両

もしもあの時、忠左衛門の退役が受理されていたかもしれない。(岡田圭司記者)

2千石の十倉谷領の財政は、江戸時代末期にはかなり厳しくなった。別表からも分かるように天保10年(1839)は1千両以上の黒字であったのが、17年後の安政3年(1856)には6千両近い赤字に転落している。借金6千両は当時の十倉領の年間収入の約10倍に当たり、毎年の利息分だけでも年間収入に匹敵した。

安政3年は忠左衛門がこれほどまでに財政が